

## 漢籍探検隊 第1回調査報告 毛晋の蔵書印の考察

## The 1st research report : Mosin's ownership stamps

名古屋大学農学部・生命農学研究科図書室  
Nagoya University Library, School of Agricultural Sciences /  
Graduate School of Bioagricultural Sciences

夏 目 弥生子  
NATSUME, Yaeko

## Abstract

"INPUGUNGYOKU" is one of the oldest dictionary for writing Chinese poetry.  
Nagoya University Library has "INPUGUNGYOKU" with Mosin's ownership stamps. I  
comment on these ownership stamps.

## 一. はじめに

名古屋大学附属図書館が所蔵する図書には、貴重でありながらまだ研究が進んでいないものが多くあります。中国の人が漢字で記した書物である漢籍についても同様で、まだまだ研究しつくされていない状態ではありません。そこで、漢籍についての理解を深めようという目的で、平成十二年から図書館職員五名で勉強会をしています。専門家である先生方が身近にいらつしやる大学の図書館という恵まれた環境を生かし、中国文学が専門の大学院文学研究科東洋学講座杉山教授にご指導いただいています。漢籍は楷書で書かれているため和古書とは異なり、読むのは簡単であること、二千年以上の歴史があり、分類体系が確立されているため、機械的にできるなどの説明を受け、取り組みやすい雰囲気を作っていただき、勉強会はスタートしました。しかし、勉強会を重ねていくうちに、書名や人名などわからないことが多く、漢籍は難しいと感じるようになり、かつ、奥が深いということを痛感しました。中国の正統な古典の本を知るために学問体系（經史子集）、図書館員として一番大切な漢籍の目録をとる方法、目録をとるためには序文などの読解能力が必要であるということ、漢文の読みかた、などをこれまで勉強してきました。

## 二. 「韻府羣玉」とは

基礎的なことを一通り学んできて、現在では、研究者がどのように漢籍について調査するか、どのような資料を利用するかを実感するため、「韻府羣玉」という特定の漢籍を取り上げ、いろいろな角度から調査を行っています。メンバーで分担して、「韻府羣玉」がどういう内容の本かを調べ、解題を作成したり、名大所蔵本の補本、補抄本、蔵書印、所蔵された経緯などの実態について調べています。この書物は、漢詩作成のための語彙集で、官吏になるための試験である科擧を受けるためのいわば受験参考書のようなものであったため、出版された中国では重要視されなかったのかあまり残っていないようです。ただし、「韻府羣玉」は熟語の下の漢字の所属する韻で分類した辞書として現存するもとも古いものとして、版を重ねて出版され、読者が使いやすいように変遷し、日本にも強い影響を与えています。そのた

めか、日本では多数の図書館などで所蔵されています。名大所蔵漢籍の中では、この「韻府羣玉」が、もっとも古い漢籍で、元時代に印刷された元版です。

### 三、蔵書印とは

蔵書印は、蔵書家が漢籍を大切に所蔵していることを示すため、漢籍の目録や序、巻頭に押し印した印のことで、姓名、字、号等が含まれたものです。蔵書印からその漢籍の所蔵者の変遷などがわかり、また、漢籍の年代を特定する一つの手がかりともなり得ます。そのため、有名な蔵書家の蔵書印ばかりをあつめて解説している本も出版されていて、蔵書印を調べる時に参考にすることもできます。

名大所蔵本の「韻府羣玉」には中国の明時代の有名な蔵書家であり出版家としても知られている毛晋の蔵書印が押されています。この毛晋は、字は子晋、号は潜在、江蘇省常熟の人です。また、毛晋の書庫は汲古閣と呼ばれ、その蔵書数は八万四千巻ともいわれる膨大なものです。「汲古閣珍藏秘本書目」、「汲古閣校正書目」などの蔵書リストも出版されているのですが、残念ながら、「汲古閣珍藏秘本書目」を確認したところ、名大所蔵本の「韻府羣玉」は載っていませんでした。なぜ記載されていなかったのかも、私たちの今後の活動のなかで解明してゆく必要があるでしょう。

### 四、名大所蔵本の蔵書印

さて、実際に、「韻府羣玉」二十巻に押し印してある蔵書印の实例を紹介いたします。（蔵書印の写真是原寸大です。）

序に三つの蔵書印

①元本（元版であることを認定）



②毛晋之印（毛晋は姓名）



③毛氏子晋（子晋は字）



目録に2つの蔵書印

①汲古主人（汲古閣の主人）



②汲古得修綆



古書を耽読する。深い井の水を汲むに似たことからいふ。「韓愈、秋懷詩」（諸橋轍次著、大漢和辞典より）

一巻と二巻の巻頭  
毛晋（毛晋は姓名）



これら六つの蔵書印は、「明清著名蔵書家蔵書印」（林中清編著 北京図書館出版社 二〇〇〇）に載っているものと同じなので、毛晋の蔵書であったということは間違いないものだと考えられます。  
しかし、名大所蔵本は、完全な二十巻のセットではなく、一部分が他の版本や手書きで補抄された本になっており、補抄された部分にあたる二十巻の巻末には二つの蔵書印が押されています。これらの蔵書印にある補抄者については、まだ考察中です。

二十巻の巻末の蔵書印

①曾為古平壽郭申堂蔵



②郭申堂庚寅季収書印



漢籍探検隊メンバー

蒲生英博（農学部・生命農学研究科図書室）  
竹内佐知子（附属図書館情報サービス課）  
棚橋是之（大学院国際開発研究科情報資料室）  
夏目弥生子（農学部・生命農学研究科図書室）  
萩誠一（附属図書館情報サービス課）  
（五十音順）